

流山シルバー

第27号

発行 / 社団法人流山市シルバー人材センター
〒270-0114 流山市東初石3-103-18 ☎0471-55-3669



流山の躍進をめざして飛翔する白鳥たち 上山英二氏撮影



私の健康法

三不借

(社)流山市シルバー人材センター

会長 内田 弘

今年の夏は、ことのほか暑い日が続き、炎天下で植栽・自転車等、屋外の仕事に携っておられた方々には、大変ご苦労様でございました。

さて、昔から加齢による年相応の体力・気力の衰えは争えないと言われておりますが、私はこれを補うのに日常いつもの次の「三不借」の実行をモットーとしております。

一、労力を惜しまず、気軽に身を動かす。

一、時間を惜しまず、じっくりとりかかる。

一、思案を惜しまず、よく考えをめぐらす。

「年をとることは、衰退ではなく円熟すること。気が充実していることが健康である。」「相撲の極意は土俵にあり。」「人生の醍醐味は老境にある。」など、先人の教訓を思い浮かべながら実践しているところであります。

超高齢社会は必至の趨勢にあります。それだけにこれからは、高齢者の豊かな知識、経験、技能を活かして社会に貢献できる場や機会が一層必要であります。それが高齢者一人一人の充実感や生き甲斐となり、健康につながっていくと考えております。

そこで、当センターでは、従来の受託事業中心だけでなく、自主事業の開発にも努めていくことが何よりも大切であると考えております。

私は三不借を座右に、会員の皆様と一体となって英知を出し合い、超高齢社会にふさわしい組織、運営を図っていききたいと決意を新たにしているところであります。皆様には益々ご健勝で一層のご支援をお願い致します。



来賓挨拶
流山市長
眉山 俊光

第36回流山市シルバー人材センター通常総会の開催に当たりまして、ご挨拶申し上げます。

平素からシルバー人材センターの皆様には、高齢者福祉について深い御理解と御協力を賜っており、厚くお礼を申し上げます。

さて、我が国においては、急速な高齢

化の進展するなか、年金の支給開始年齢引き上げや、景気の長期低迷等による中高年の就業機会の減少など、高齢者を取り巻く環境は非常に厳しくなっております。

このため国においては、従来からの生きがいの充実や、社会参加の促進を目的とした「高齢者労働能力活用事業」に代えて、新たに社会制度改革への円滑な対応をも目的とした「高齢者就業機会確保事業」を実施されているところであります。

このような中、本市シルバー人材セン

ターの業績は、着実な事業の伸展をとげられており非常に心強く思っております。市であります。市といたしまして、就業機会の拡大などを含めた支援策の充実に努めて参りたいと考えておりますので、会員の皆様方のご協力をお願い申し上げます。

終わりにあたりまして、本日のこの総会が大きな成果を納められますよう、また、流山市シルバー人材センターの益々の発展と本日ご出席の皆様のご健勝、ご活躍を心から祈念いたしましてご挨拶いたします。

通常総会
平成13・5・22
第36回

平成12年度事業
平成12年度収支決算

社流山市シルバー人材センター
第36回通常総会々々場

去る5月22日(火)午前10時から初石公民館において開催され、本総会に提案された平成12年度事業報告、同収支計算書等の議案8件は、慎重審議の結果、いずれも原案通り可決、承認され、12時10分閉会した。

総会は、第3地区の小池理事の司会で進行し、五十嵐副会長の開会宣言、次いで内田会長から「不況下にあつて当

センター事業が順調に伸びているのは皆様の努力の賜物、本日の総会を出発点として更に頑張ろう。」と力強い挨拶があった。

次に、来賓挨拶として、眉山流山市長が他の用務で欠席されたため、代理出席の岡本助役からご挨拶を頂いた。

(別掲の通り)
続いて出席された大塚県議会議員からは「知識、経験、



技能の優れた皆さんが、行政の行き届かない分野で活躍され、この総会を節目として県下でモデルとなるように発展することを期待する」との激励の言葉があった。また小宮県議会議員からは「今後、高齢化に向けて会員の増加は必ずであり、就業の場の確保は重要な課題、例えば、お年寄りのホームヘルプの分野でも市民の期待は大きい。シルバーの姿勢をもっとPRして欲しい。」との提言があった。

次いで、来賓として作田流山市社会福祉協議会長、田中流山市老人クラブ連合会副会長、海老原流山市保健福祉部長、鈴木高齢者支援課長の方々が紹介された後、ご来賓の退席があり、議事に入った。



議長に第9地区の橋本喜二氏が選出され、初めに出席状況の報告があった。

会員総数 四五〇名
出席会員数 三九三名

(委任状を含む)

よって会議は成立していることが報告され、続いて議事録署名人に第1地区の松田明氏、第5地区の岡野末吉氏が選出された。

直ちに議案審議に移り、全8議案が上程され、須賀事務局長、根本所長、浦壁互助会長の説明の後、土井監事、窪田監事から法令に則って適正に執行された旨、それぞれ監査報告があった。

議題は次の通り

○議案

- (1) シルバー人材センター
平成12年度事業報告
 - (2) 勤労者総合福祉センター
平成12年度事業報告
 - (3) 勤労者体育施設
平成12年度収支計算書
 - (4) 互助会
平成12年度事業報告
平成12年度収支計算書
- 平成12年度収支計算書
質疑に入り、平成12年度事業報告、同収支計算書については、就業率について、就業開拓活動について、人件費につ

いて、登録説明会について等、活発な質疑、応答があった。また、勤労者総合福祉センター、勤労者体育施設については質疑はなく、互助会については、補助金のあり方等について質疑、意見が開陳された後、全議案について、原案通り可決承認された。最後に五十嵐副会長の閉会宣言で無事終了した。





新世紀の確かな歩みを

(社)流山市シルバー人材センター
事務局長 須賀博一

会員の皆様、本年四月に事務局長に就任致しました。よろしくお願い申し上げます。

月日の経過と共に、会員の皆様とお会いし、交流し乍らシルバー世代の情熱とエネルギーをひしひしと感じ、それを育んでいるシルバー人材センターの歴史の重みと、責任の重大さを痛感している次第です。

小生、流山市役所を退職後、病院系老人福祉施設に勤務し、急速に進む高齢化社会の介護の現実を体験して参りました。その意味で、行政の他、今後増加すると思われる家事サービス、生活支援の分野でも、何分かお役に立てればと考えております。

さて、景気の低迷、雇用情勢の悪化等、シルバーセ

ンターを取りまく環境が厳しさを増す中、今後更なる発展拡充をも図る為には、就業開拓、需要に即応出来る組織機能づくり、安全確保等当面の課題解決が急務であります。更には新しい時代への展望のもとに、地域社会で「働く」「参加する」「貢献する」等、多様な活動形態が求められて来ると思います。

幸い会員、執行部の皆様には、激動の時代を生き抜いた経験と知識がございます。必ずやその英知が結集され、新世紀に向けた目標に添って確かな歩みをされるものと期待しております。小生も、微力乍ら会員の皆様のご指導を得て、共に当センターの発展の為に努力したいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

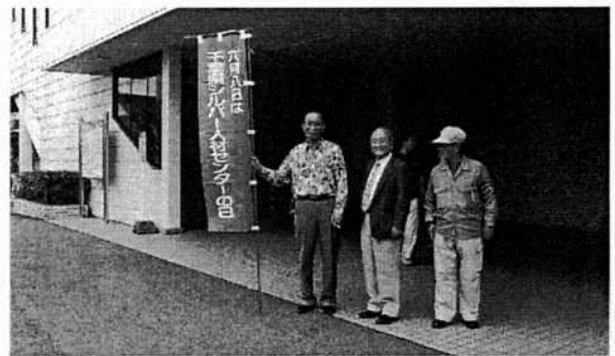
シルバーの日

駅頭でPR活動実施

千葉県シルバー人材センター連合会の前身である千葉県シルバーセンター協会の設立総会が、平成4年6月8日に開会されたことを記念し、6月8日をシルバー人材センターの日とした。つまりシルバーの日は、4年6月8日を「シロバ」と読み、更に「シルバ



シルバーです よろしく



PR活動終って

と読み変えて、語呂合わせでシルバーの日と呼ぶようになつたといわれている。

この日は、各市のシルバー人材センターでそれぞれ工夫してPR活動を行うことになっている。そこで今年も流山市では、理事が二手に分れ、江戸川台駅と南流山駅の両駅の駅頭に出て、テッシュペーパーやパンフレットを配りながら、シルバー人材センターのPR活動を行った。

『事故0を今年も』

安全就業対策委員長 浦壁 隆雄

「安全就業は一人一人の意識から」

文字通りこの標語のように就業者一人一人が安全第一を意識して就業した結果が、昨年度は事故0の実績でした。3年振りの快挙です。2年続けて事故が発生し、当シルバートの歴史に汚点を残したが、昨年は事故0という輝かしい一ページを記したことは慶賀にたえません。会員全員で祝福しようではありませんか。

今年度も事故0を目指して安全就業対策委員会は、昨年同様奇数月の第3火曜日、2名一組で安全パトロールを実施します。皆様の職場に訪問しますのでその節はよろしく願います。昨年の事故を全国的に見ますと、交通事故が約60%とトップになっています。決算総会で配布されたパンフレット（みんなで考えましょうシルバート人材センター会員の交通事故防止）も、交通事故0を願いつつ全シ協が作成したものです。我々シルバート

安全就業は心と体の健康から

年代特有の弱点をよく把握、指導していただきますので是非ご一読を。

安全就業10の原則

- 一、心身の調子を一定に保とう。
- 二、仕事に合った服装をしよう。
- 三、携帯道具を点検しよう。
(薬、飲料水)
- 四、作業道具を点検しよう。
- 五、準備体操をしよう。
- 六、合言葉の確認をしよう。
(慌てず、急がず、無理せず、丁寧に)
- 七、現場はいつも4つを守ろう。
(整理、整頓、清潔、清掃)
- 八、共働共助で助け合い、励まし合い、相談し合おう。
- 九、帰宅途上も気を抜かないようにしよう。
- 十、反省そして明日に備えよう。



▼規定・要綱の一部改正▲

理事、監事選考要綱の一部改正について
適格な人選と会員との連携を密にするため、選考基準を次のように改めた。
一、会長は班長会議で、理事・監事候補の推薦を受け選考委員会に付託する。

二、職群理事は9名として、ブロック単位毎に選出し、地区理事を兼務する。

自転車（北、南）2ブロック・福祉会館・勤総（勤体、青少年を含む）
・公民館（文化、図書、一茶を含む）
・運動公園（上耕地、河川敷、体育館を含む）
・植栽・除草・家事は各1ブロックとする。

三、地区理事は、職群理事のいない空白地区について、地区候補の中から選出して「公共事業」「民間事業」理事を兼務する。

互助会会則17条一部改正について

1、会員死亡のとき遺族に対し香料として1万円

2、会員が2週間（14日）以上入院したときは、一疾病一回限り5千円
診断書の提出は必要なし

平成13年度

班長会議開かれる

去る7月16日(月)、18日(水)の両日に亘って、センター会議室において班長会議が開催された。

今回の議題は、

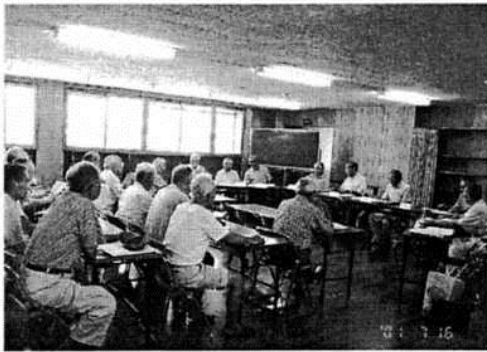
- (1) 理事、監事の選考基準の改正について
 - (2) 就業基準について
 - (3) 職場の諸問題について
- であるが、話合いの効率化から公共関係、自転車関係、地区関係の三グループに分けて行った。

各班長会議に先立ち、内田会長から、

- ・平素当センター事業運営の中で、各担当班長の立場からご協力を頂きありがたい。
- ・用意した議題について活発な論議を頂き、相互理解を深めていきたい。

等、開会の挨拶があつて早速議事に入った。

議題(1)理事、監事の選考基準の改正については、初めに



公共関係班長会議

五十嵐副会長より、

- ・今までは地区中心に理事の選出であつたため、選考委員は会員との面識もなく、選考に当って困惑した。
- ・適格な人選と会員との連携を密にしたい。

等の理由から、

- ・今回は職群を中心として、理事、監事を選出し、その理事は地区理事を兼ねる。

兼務の理事が選出されなかつた地区では、地区から理事

を選出する。

- ・理事、監事の選考に当っては、予め班長会議で候補を推薦してもらい、選考委員会はその中から選出する。
- ・等の説明があつた後、選考基準改正要綱(本号5ページ参照)をもとに活発な意見の交換があつた。

主な意見として、

- ・基準の改正に当っては、理由や方針を文章化し、明確にしておくことよい。
- ・説明に当っては、資料をもつと用意してもらいたい。
- ・新しい理事は、今までセンターの行ってきたことを継続していくのであるから、現在センターの抱えている課題や問題を明確にしておく必要がある。
- ・職群ブロック毎に1名推薦となると、横のつながりがないので容易ではない。
- ・職群の理事の役割は何か、明確にする必要がある。
- ・選考委員の任期は2年間とし、半数ずつ変えていくよ



地区関係班長会議

うにしたらどうか。

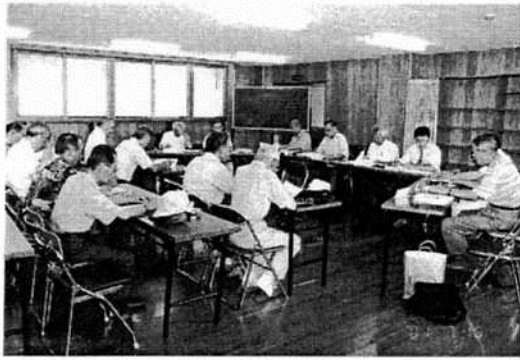
この結果、職群を中心とした理事、監事の選出は承認され、具体的な方法については今年度中に再度班長会議を開き話し合うことになった。

議題(2)就業基準について五十嵐副会長より、

これからの高齢化や社会の情勢を考えたとき、会員の増加、それに伴う就労の場の確保等の必要から就労基準を作成している。内容としては、

- (1) 就業通知書を発行する。
- (2) 就業に当っては試用期間を設ける。

安全就業は一人一人の意識から



自転車関係 市職員も出席して

(3)休業一か月以上の場合
他の会員を補充する。
(4)不適切な行動、行為を行っ
たときは就業中止とする。
(5)公共関係の職種を中心
同一職場に5年以上就労
した場合異動する。
等の説明があつた後、質疑が
行われたが、詳しくは次回の
班長会で就業基準の資料に基
づいて更に話し合いを深め、
理解を図っていくことになつ
た。

議題(3)職場の諸問題につい
て、特に自転車関係の班長会
議では、市に対する問題も多
いので、会議の最初に市生活
安全課菊地課長補佐、菅原主
査の出席を得て、駐輪場に関
する問題が話し合われた。
初めに江戸川台駅駐輪場か
ら問題が出された。
①場所によって夜間照明が暗
い。場内灯の増設を。
②駐輪場の白線区分の塗装の
実施を。
③一般車と学生車との整理区
分の実施を。
④駐輪場外の放置自転車の処
分。
⑤駐輪場周辺緑地帯の除草を。
これらの問題は各駐輪場共
通の問題である。優先順位を
つけ書類として出してもらえ
れば予算の範囲で処理したい
との回答があつた。その他活
発な意見が出され、市との意
志の疎通を深めることが出来
た。

平成13年度 家事援助サービス講習会

開催日	講習内容
7月9日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ●介護保険制度とサービスの利用方法 講師 市介護支援課担当者 栗田 徹様 ●救命実技実習(心肺蘇生法) 講師 消防署担当者 伊藤 勝様 ほか
7月23日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ●家事援助の方法(ホームヘルパー養成初歩) 講師 市中央在宅介護支援センター ケアマネージャー 山本直子様 介護福祉士
8月8日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ●介護サービス利用者とのケア(心理面への援助) 講師 市中央在宅介護支援センター 保健婦 小宮光枝様 ●介護技術演習(片マヒの着脱 他) 講師 市中央在宅介護支援センター ケアマネージャー 松鶴克子様 介護福祉士

場所 シルバー人材センター 2階会議室

家事援助講習

家事援助では、資質向上を
はかるため会員の勉強会を、
別表の通り開催しました。
七月九日午前、介護保険の
講義は、主婦向けの優しい内
容で、老後に安心と明るさが
見えて大変役にたつ勉強会だつ
たと会員が話してくれました。

午後は、「熱中症」の話の
中で段階ごとの手当てがある
事を知り、心肺蘇生法もモデ
ルなったりして双方の体験が
出来て、満足げな会員の顔に
主催者側もほっとしました。
又、保健センターで赤ちゃ
んの沐浴講習(産褥期ヘルパー)
に参加しています。若いパパ・
ママ達と同じ場での実習は現
代子の気心もわかって会員の
自信につながり、新米ママに
はシルバーが強い助人になる
ことまちがいありません。



救急実技実習

広報『シルバー流山』がじねんぼ

広報は、シルバー人材センターと会員とのコミュニケーションを図る唯一の場であることは、広報25号で述べた通りである。従って、センターの現況や活動状況をできるだけ詳しくお知らせする一方、会員の皆様の意見、感想、随想、趣味等、数多く発表できるようにして交流を深めるように努めている。しかし、何と言っても、まず広報について皆様に関心を持って頂き、喜んで読んでもらえるものになければならないと考えている。このことから編集委員は互いにアイデアを出し合い、毎号少しずつではあるが、変化のある広報にと努めている。

センターの活動は日々続けられている。その活動の中で是非お知らせしたいことは、その時、その場で原稿にしておかなければならない。従って、広報が発行された時点で次号の編集会議が始まり、新しい広報が印刷、発行するまでの細かいスケジュールを立て、それに沿って企画し進めている。

先ず、今度の広報に載せる内容はどんなものがあるか調べ、検討し、割付けをする。それに基づいて原稿の字数、原稿依頼者、挿入する写真や表、締切日等を決めて原稿を依頼している。今回の27号では第一回の編集会議を4月24日に開き、早速原稿を依頼したり、写真や資料を集めたりして、編集に取りかかった。原稿や写真を集めるに当たって最も気を遣うのは、表紙に

当る一面の写真である。これは広報の顔とも言うべきものである。流山市を象徴するもの（シルバーに関連するものであればなおよい）で、表紙に相応しいものでなければならぬと考えている。そのため印刷に発注するまでなかなか決まらないこともある。



次に「会員の広場」の欄である。いろいろな会員の方の掲載をと考えているのである

が、投稿が少なくて苦慮しているところである。

原稿が集まると、内容の検討、誤字脱字、句読点、改行等、原稿の推敲をする。字数がオーバーの場合は一部削除をさせて頂くこともある。また内容や表現にも多少手を入れさせていただくこともある。この時は、勿論執筆者の了承を得るようにしている。

広報は会員の皆様だけでなく、市行政や関係機関にも配布されるので、念には念を入れて編集している。印刷に当たっても第一次校正（一校）、二校と行い、26号のときは三校まで行った。

このようにして広報を作りお届けしているのであるが、これからも編集委員一丸となつて、よりよい広報にしていこうと頑張っていくつもりである。会員の皆様の広報に対する意見、ご感想、積極的な投稿、そして、ご愛読を心からお願いする次第である。

職場紹介

社の中の

東深井作業所

班長 岩瀬 茂

朝8時チヨットコイ、チヨットコイのコジユケイ特有の鳴き声を聴き乍ら開錠し、作業所の一日が始まる。

この作業所は東深井老人福祉センターの敷地の中にあり、近くには森林公園、市民プール、図書館などがあり環境に恵まれている。建物は鉄骨平屋建てで広さは40坪、昭和55年に市より提供されて始まる。

開設当時はシルバーセンターの事務局が併設されていたが、現在は総べて作業場となり、畳一枚分大の作業台が14台置かれ、12名の会員が就業している。稼働時間は8時30分から15時としているが、時間の

拘束はなく会員の自由である。

作業内容は、主に玩具とそれに付随する部品の組み立てや箱作り、電器器具の組み立て等多種多様である。受注量も月平均25万部位ある。

作業する会員は、発注先の信用を得るためにも、クレームのつかない製品の出荷を常に心掛けている。

発注先に恵まれて仕事が途切れる事は殆んどない。会員の方で作業所に就業の希望があれば、事務局に連絡を。二名分の作業台の空席がある。



組み立て作業

常に利用する

身になって

班長 吉村 一男

緑豊かな総合運動公園その一角にある市民総合体育館、そこが私達の職場である。

昨年4月初めから就労し、一年余り経過した。やっと仕事にも職場の雰囲気にも慣れて来た。会員は5名で、通常は午後5時～9時30分迄、2名ずつの勤務である。今年4月から体育館は祝日も開館日となり、祝日のみ午前8時30分～午後5時迄3名、午後5時～9時30分迄2名の交替勤務となっている。

仕事の内容は、昼間勤務の職員との引継ぎ後、窓口での受付業務。これは有料施設であるので金銭の授受を伴うため神経を使う。その他館内、館外の照明の点灯消灯、一時間毎の館内の巡回、電話の問い合わせに対する対応、閉館時に扉や窓の閉状態の確認、



利用について説明

駐車場の施設等である。体育館の利用状況は、平日の夜間の受付件数は10～15件で、若者の利用が圧倒的である。私達は、接客には不慣れな為にお客様に迷惑をかけないように、気持ちよく、体育館を利用して頂けるよう、常に利用者の方の事を考慮し、仕事をするように心掛けています。

何よりも会員の皆さんが、仕事に対して前向きで、非常に協力的なので、チームワークはバッチリである。

『事故ゼロ』は我がシルバーの合言葉

人差し指の

パソコン

太田 貞治 (野々下)

朝、目が覚め、パソコンにスイッチを入れる。これが一日の始まりである。

今から四年程前に忘失、度忘れの威力を説いた「老人力」という本が話題、ベストセラーになった。共感しつつ読み終わると「自分は大丈夫？」の疑念が頭の中を駆け巡る。

何かをやるうと模索中に「IT革命」なるものが出現。脳の皺を増やすのは無理としても、刺激を与えれば多少は「柔らか頭」を保ち、若い世代とのギャップを埋める絶好のチャンス、「この一端を齧って見ても損はない」と言う思いでパソコンに挑む。「習うより慣れろ」、早速パソコンを買い、取扱説明書、参考書、サポートセンターを相手に「初期設定」なるものから取り組む。聞き慣れないアメリカ生まれの専門用語がやたら出てくる。「読んで分からない

い頭の悪さ、理解できない人は読むな」と言わんばかり。「読んでも頭に残らず、ページが代わる度に直ぐ忘れ」を繰り返す日々が続く。人差し指一本で必死にキーボードを叩き、試行錯誤の末、インターネットに繋がったのは約一カ月過ぎのこと。

嬉しさの余り、手当たり次第に用もない電子メールを送る、相手には「E迷惑」だったようだ。今は日本列島南から北へ季節感

溢れる桜便り、夏祭り、紅葉と秘湯のホームページの「追っかけ」に夢中。

まだ初歩の段階、無限の情報秘めてあるこの世界、見たい、聞きたい、知りたい、「斑ボケにはなりたくない」

ためにも一本指から三本指のプレーヤーを指したい。



誘導とコミュニケーション

ケーシヨン

植木 勉 (駒木台)

私達6名は、平成12年4月より江戸川台駐輪場誘導係として、月々金曜日の午前8時30分〜10時30分迄放置自転車誘導に従事している。江戸川台駅周辺は多くの放置自転車で行きの妨害になっていた。特に歩行者への妨害は酷いと思つた。

会員の広場

私達は諸先輩から、誘導の仕事について懇切な指導を受けた。例えば、利用者への接遇の仕方、放置自転車に札紙の付け方、一時保管所への移動の仕方等である。

誘導の仕事を始めた最初の頃は、毎日何十台単位で放置自転車を一時的保管所へ移動した。移動された利用者からは「税金泥棒」とか「自転車泥棒」とか暴言をはかれた。又「私の自転車は何処へ運んだか」と聞かれたこともあった。

このような場合は、放置した時の状況を聞き、移動した理由と移動場所を説明し、自分の自転車がよく確認の上引き取るよう話した。時には一緒に行き自転車を探したこともあった。これも将来につながるコミュニケーションだと考えた。

誘導の目的は、利用者と地域の人々と私達の心が一体になってこそ、違法駐輪が減って行くと考えている。

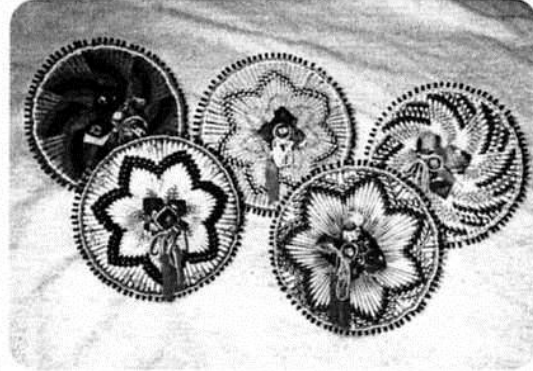
最近、流山へ越したばかりの子どもを連れて若い母親が、周辺の地理も自転車を置く場所も分らず迷っていた。そこで、有料預り所について説明し、その場所まで案内した。

当人も喜んでくれたし、預り所からもお礼を言われた。これも小さなコミュニケーションだと思つている。地域や利用者から「毎日ご苦労様」と言われるようになった。私達の誘導に対して理解されるようになったと思つている。これからは恥じない誘導の仕事を頑張っていきたい。



ペーパークラフトと
ニャンコの小物入
荻原節子(松ヶ丘)

ペーパークラフト
小菅ちい(東深井)



手芸

陶芸



松谷 幸一
花ビンと深鉢
松谷幸一(東初石)

いろいろな花ビン
吉川 毅(平和台)



写真



花に止まる蝶
新沼忠一(流山)

鳴門の渦潮
林口忠夫(古間木)

